

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな) とおやま まさよ 遠山 真世			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) はらだ こうき 原田 晃樹		立教大学コミュニティ福祉学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 1	RIK f -090701-0	24	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生自らテーマを考案・選択するとともに、調査票の作成や配布・回収、データの入力・クリーニング・分析、報告書の作成までを行った。担当教員は、それらの作業を統括する役割を担った。受講生にとって関心の高いテーマであり、企画から分析まで積極的に実習に参加していた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：「立教生の就業意識とキャリア形成」
2. 調査の内容/概要：本大学の学生がどのような就業意識をもっているのか、就職後のキャリア形成・仕事と家庭の両立なども含めて明らかにする。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：調査対象は本大学に在籍する学生である。学生名簿が利用できないため無作為抽出は行えず、授業やゼミ、サークル等での配布・回収となった。
4. 主な調査項目：希望する進路・職種、働く目的、就職活動に対する不安、転職の可能性、安定志向、性別役割意識、家庭に対する意識、社会問題に対する意識

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：
学生名簿が利用できないため無作為抽出は行えず、授業やゼミ、サークル等での配布・回収となった。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：
調査時期：2009年9～11月、調査地：大学内の授業やゼミ、サークル等、調査員数：受講者24名
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：
有効回収数は473であり、在籍者数18391人に対する回収率は2.4%であった。他学部の学生に対する配布に力を入れたが、それでも同じ学部の学生の回答数が多くなるのを避けられなかった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いて単純集計・クロス集計・重回帰分析・因子分析などを行い、性別や学部による違いや就職意識を規定する要因について分析を行った。結果の解釈に際しては、回答者の偏りに留意した。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：就職に関する意識については、性別よりも学部による差が大きかった。多くの学生が就職に安定を求める一方で、正社員であることや就業継続に執着しない学生もみられた。
10. 報告書刊行の予定と概要：受講者が各自の関心にもとづいて分析を行い、10ページ程度のレポートを作成した。それをまとめた報告書はすでに刊行されている。